



神郡に秋の彩り

第41回 西日本菊花大会開幕

今年も神郡宗像に菊の季節が到来しました。第四十一回西日本菊花大会(宗像大社菊花会、宗像観光協会共催)が十一月一日に開幕、境内は多くの菊花で彩られています。

この菊花大会は、質・量ともに全国屈指の規模を誇り、愛好家が丹精込めて育てた、大輪・盆栽・懸崖・福助・ダルマ作り・古木添え木・洋菊・千輪咲き・一文字作り・菊人形と様々な種類の菊約三千鉢が出品されています。

又、『今年起きた様々な震災の記憶を風化させない一助となれば』という菊花会々員の皆様のお気持ちにより震災復興祈念花壇を特設しておりますので、参拝者の皆様には是非、足をお留め頂きたいと存じます。

期間中、境内は観菊者・七五三詣での家族連れ等で大いに賑わっております。「菊みくじ」、「喫茶コーナー」(勅使館)も設けられ、また菊苗・菊花、地域の特産品や軽食の販売も行っております。何かご不明な点がございましたら、緑のジャンパーを着た菊花会々員にお気軽にお声掛け下さい。

尚、本年は開催期間が十一月一日〜二十二日迄と例年より会期が一日短くなっておりますので気を付けてご参拝下さい。



11月祭事暦	
1日	月次祭 午前10時〜 高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社 月命日祭
	午前11時〜 総社祭 浦安舞奉奏
3日	明治祭 午前11時〜
15日	月次祭 併 七五三祭 午前10時〜 総社祭・高宮祭 第二宮・第三宮祭
23日	新嘗祭 午前11時〜 豊栄舞奉奏

余滴

神道では、食前と食後に「味つ物百の木草も天照日の大神の恵み得くこそ」朝宵に物喰ふことに 豊受の 神の恵みを 思へ世の人」という和歌を詠み上げ「頂きます」御馳走様でした」となる。

この二首の和歌は「玉銚百首」の中で国学者本居宣長が詠まれた和歌であり、五穀や全ての木草の育みは天照大神の御加護であり、豊受大神からの恵みに感謝しよう、という意味である▼他の宗教でもその作法は様々であるが、食事の際に神仏の恵みに感謝し、祈りを捧げるといふ点では共通している▼我々神職が食事の度にこの和歌をあげているか、と問われれば実践されている神職は多くはないであろう。しかし、「頂きます」という言葉については、国民の多くに自然と染みついていく文化である。宗教ではなく文化としてのこのような言葉は、他国では見られない。世界中が認めたいない」と同様に見直され広められるべき文化であり、誇るべき我が国の国民性を示している▼しかし現在の我国ではこの精神が希薄になってはいないか。外食した際、手を合わせ「頂きます」と言っている姿はまず見られない。更には「給食費を払っているのに何故いただきますと言わせるのか等」という保護者もいるようだ。東日本大震災、台風の被害に見舞われた今年、日本の国民性・精神性を見直す動きが顕著になったように感じる。この世界に誇るべき頂きますの文化も習慣としての言葉だけでなく、その精神性をしっかりと伝え、繋げなければならぬ。(長)

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

秋季大祭 齋行

陸上神幸 往時の姿へ、
好天に恵まれ三日間で約二十万人が参拝

十月一日

みあれ祭(海上・陸上神幸)
主基地方風俗舞 奉奏

午前八時半、中津宮で出御



「みあれ祭」海上神幸

祭齋行。九月に齋行された神
迎え神事にて中津宮本殿に奉
安されていた沖津宮御神璽、
又中津宮の御神璽を神輿に奉

安し、大島小
学校鼓笛隊の
先導のもと大
島港まで陸上
神幸が行われ
た。沖津宮の
神輿は御座船
「福海丸」、中
津宮の神輿は
御座船「第二
成幸丸」にお
載せし、午前
九時二十分、
大島港を出
港。港外には
波切御幣・御
長手(紅白吹
流し)、大漁旗
で飾られた約
百五十隻の漁
船が待機して
おり二隻の御



中津宮出御

座船に続いた。

一方、辺津宮では午前九時
より辺津宮出御祭を齋行。辺
津宮の御神璽が神湊港に向か
われ、御座船「健栄丸」で海上
の合流地点まで向かった。

大船団の神幸する様は、『勇
壮』の一語に尽きる。合流した
三隻の御座船は神湊港沖合で
停船。約百五十隻の供奉船は、
御座船を周回し宗像七浦の各
母港へそれぞれ帰還した。

それを見送った三隻の御座
船は神湊港に入港。船から降
ろされた三基の神輿は、神湊



三十年振りの姿

の高台にある頓宮まで御神幸
し頓宮祭が齋行された。祭典
後、御座船奉仕者に感謝状・
記念品が贈呈されると深甚な
る御奉仕に対し、参列者より
大きな拍手が起った。

本年は地元からの要望で約
三十年振りに徒歩による陸上
神幸が頓宮より神湊市街地を
通り神湊郵便局まで延伸され
た。それに伴い神湊・田島両地
区コミュニティ・宗像観光協会・
当大社氏子青年会などの諸団
体により陸上神幸実行委員会
が結成され、運営を担った。御



神幸には、地元住民の外、玄
海・玄海東・東郷等の各小学
校の児童も御長手(紅白吹流
し)を捧持して御神幸に加わ
り、古雅な姿の御神幸が神湊
で再現された。同郵便局前の
御駐輦所で御神璽が御座車に
移され、白バイ・消防車に先導
されて辺津宮に向かい、辺津
宮第一鳥居からは、神職が捧
持し、地元住民、前述の小学
校児童が御長手を捧持して先
導、定刻通り、本殿へ入御され
た。

引き続き本殿にて秋季大祭

一日祭(入御祭)が斎行され、高向宮司の祝詞奏上に続いて、保存会奉納の主基地方風俗舞が厳かに奉奏され恙無く祭典は終了した。

十月二日

流鏝馬神事、浦安舞奉奏

午前八時から神門前の馬場で流鏝馬神事の奉納があり、馬上の射手が地上七人の的に



翁舞

向け、次々と矢を射ると参拝者から盛んな拍手が起こっていた。

午前十一時からの二日祭では、地元玄海中学校の女子生徒四名による浦安舞が奉納され、十二単を身に纏った舞姫の姿は、詰めかけた多くの参拝者を魅了した。

尚、氏子奉幣使は宗像市赤間地区の谷口哲二氏に御奉仕を頂いた。



高宮神奈備祭

十月三日

浦安舞奉奏

午前十一時より三日祭斎行。福岡市の喜多流能楽師・梅津忠弘師同社中の奉仕により、能管や鼓の鳴り物に合わせ能楽「翁舞」が神前に奉納され、神妙なるこの舞に多くの参拝者は足を止め見入っていた。三日祭終了後、引き続き奉仕神職が高宮・第二宮・第三宮・宗像護国神社の各祭場へ別れ秋祭りを斎行した。

午後二時からは拝殿で南坊流・二代洗心庵・



主基地方風俗舞

瀧口宗芳氏以下同社中による献茶祭が斎行され見事な御点前を披露された。

また午後六時には、高宮神奈備祭が高向宮司以下神職・巫女、氏子青年会外の奉仕の下斎行され、浄間の祭場で「悠久舞」が奉奏されると参列者一同感動の様子であった。この高宮神奈備祭で三日間に亘る秋季大祭は無事に締め括られた。

ここに秋季大祭に御奉仕頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。



浦安舞



流鏝馬神事



氏子奉幣使 谷口哲二氏



辺津宮へ向う御座車

秋季大祭奉仕者は次の通り (敬称略)

宗像大社氏子会

◎海上神幸奉仕

◎沖津宮御座船 福海丸

(鐘崎) 船長・権田能教

◎中津宮御座船 第二成幸丸

(大島) 船長・藤島 登

◎辺津宮御座船 健栄丸

(神湊) 船長・三吉健一

◎沖津宮先導船 第二曙丸

(神湊) 船長・古武義成

◎中津宮先導船 幸福丸

(福岡) 船長・広渡和幸

◎花火船 生漁丸

(大島) 船長・上野美美

◎報道船 第八春日丸

(大島) 船長・遠藤英樹

◎報道船 第三玉栄丸

(大島) 船長・佐藤 守

右を始め海洋神事奉賛会

(会長・権田仁八郎) 参画の

宗像漁協・鐘崎漁協等所属の

漁協組合員の皆様

◎陸上神幸奉仕

◎御座車

西久大運輸倉庫(株)・(株)新出光

宗像地区タフシー協会

宗像観光協会

◎先導車

宗像観光協会

宗像地区交通安全協会

宗像市消防団第一一分団

◎供奉車

宗像市消防団第十二分団

玄海ホテル旅館組合

◎鼓笛隊

大島小学校児童

◎御長手棒持

玄海小・玄海東小等

市内各小学校児童

◎陸上神幸実行委員会

神湊コミュニティ

田島コミュニティ

津加計志神社総代

宗像観光協会

宗像・沖ノ島世界遺産市民の会

宗像市

◎主基地方風俗舞奉仕

〔舞方〕中野久志、清水陽介

松井徳一郎、松井稔

〔歌方〕石津典秀、吉田敏幸

中野修、古武倫彦

永島卓爾

◎氏子奉幣使

谷口哲一

◎流鏝馬奉仕

宮木貞彦 師門下

宮本卓也、柴垣裕司

木稻貴史

◎浦安舞奉仕

玄海中学校二年生

大森可南子、中野沙菜

山本繭、本山末陽

◎翁舞奉仕

喜多流能楽師 梅津忠弘 同社中

◎南坊流献茶奉仕

一代洗心庵 瀧口宗芳 同社中

◎高宮神奈備奉仕

宗像大社氏子青年会

沖津宮・中津宮秋季大祭斎行

十月十日・十一日の両日、筑前大島に於いて沖津宮・中津宮の秋季大祭が厳粛且つ盛大に斎行された。

この大祭は旧暦の九月十五日に斎行され、漁村である大島は漁止めとなり島全体を挙げての大祭となる。又、神賑行事として島内の各地区・団体より演芸の奉納もあり、毎年盛大に斎行されている。

十日、早朝より沖・中両宮

奉賛会、同翼賛会、同敬神婦人部のご奉仕により社殿や境内の装飾、又中津宮本殿東側には秋季奉納演芸大会の舞台が設置された。午後五時、沖津宮遙拝所、中津宮に於いて宵宮祭が斎行され、翌日の大祭の無事斎行を祈念した。

翌十一日、早朝より降り始めた島を清める雨も九時頃には止み、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭・大島の最高峰に鎮座する御嶽山頂で御嶽神社祭・宮崎地区で厳島神社祭が其々支障なく執り行われた。

午前十一時、地元島民を始め遠近の篤信者多数参列のもと、



奉納演芸大会

中津宮秋季大祭が斎行された。祭典は高向宮司により国家・皇室の弥栄を祈念する祝詞が奏上され、次いで氏子の島民を代表し、奉幣使の藤島和也氏が祭詞を奏上された。続いて巫女が神楽「浦安舞」を奉奏し、次に宮司・奉幣使・参列者が各々玉串拝礼を行い、祭典は厳粛裡に斎行された。



中津宮 秋季大祭



氏子奉幣使 藤島和也氏

午後一時三十分、秋空の下恒例の「奉納演芸大会」が開催され、子供達による太鼓やダンス、各地区からは舞踊・カラオケ等が披露され、秋澄む境内は神人和楽の笑いと歓喜の声に包まれた。

宮中献上米 斎田拔穂祭

九月二十五日、むなかた地区良質米支援協議会の宮中献上米斎田拔穂祭が当大社より神職二名が宗像市朝町の田中一彦氏所有の斎田



儀」では田長たる協議会会長による検知・検分の中、耕作主の田中一彦氏が斎田の稲穂を三把刈取り神前に供進

へ出向、谷井博美宗像市長、伊規須国光同協議会々々長(丁Aむなかた・代表理事組合長)ら関係者参列の下斎行された。この宮中への御米献上は、福岡県下の持回りで戦後より行われている。尚、五月に播種祭、六月には御田植祭が斎行されている。

され、関係者が稲の無事収穫を感謝し玉串を捧げ祭典は終了した。続いて「拔穂行事」が行われ、たわに育った稲穂が早乙女等によって心を込めて刈り取られた。この献上では、御米と共に稗も献上することになっており、斎田の一部で育てられた稗も同時に刈り取られ、拔穂祭は滞る事執り納められた。



斎田風景



「検知・検分の儀」

を祈念する祝詞を奏上、続いて「拔穂の十月十七日には、当大社本殿にて献上奉告祭が伊規須国光同協議会々々長、耕作主・田中一彦氏御夫妻ほか関係者参列の下斎行され献上米・稗の御祓いが行われた。

後日、これらは天皇陛下御親ら御親祭遊ばされる十一月二十三日の新嘗祭で供される。又、明治神宮にも奉納される事になっている。

藤川宣重氏 名刀を ご奉納

去る十月十日、当大社へ藤川宣重氏所蔵の刀一口が奉納された。藤川氏は昭和四十五年から当大社が所蔵する刀剣の研磨を続けられ、永きに亘り誠心誠意のご奉仕を賜り、神徳発揚に功績をあげられてきた方である。「刀剣研磨の技を磨くことができたのは大社でのご奉仕によるもの」という藤川氏の感謝の念を賜り、この度の奉納となった。

召されたことにより、信国吉貞以降、一派は筑前に移り筑前信国として黒田家に仕え鍛刀した。宇佐信国刀は安心院公が他家への刀剣売買を禁じたため稀有で貴重なものである。これまで、当大社所蔵刀のうち信国系については古刀、新刀、新々刀があったが、古刀は京信国と伝わる短刀一口のみであった。この度、宇佐へ移った一派の手による古刀が加わり、信国一派の刀の充実につながったことは学術的にも意義深い。

当日は午後二時より辺津宮本殿にて、藤川氏と御家族四名が参列し、奉納奉告祭を斎行。続いて、高向宮司より感謝状、記念品の贈呈、その後勅使館で直会が行われた。

刀剣を知り尽くした氏が愛した名刀は、信国一派の歴史はさることながら宗像三女神への敬神の篤さを大いに語る逸品といえる。当大社は、名刀のご奉納に深謝するとともに、後世に伝えるために尽力していく所存である。



奉納刀「信国吉定」



神郡の祭り

飯野郡、出雲
大社の意宇
郡ほか全国
で九社の神社
に神郡が認め

九月から十月にかけて神郡宗像内の各神社で秋祭が行われ、当大社神職が祭典奉仕又は献幣使奉仕の為、出向した。神郡とは、七世紀の律令時代に定められた制度である。文字通り『神の領地』であり、その一郡全戸が神社に属し、貢物を神社に供するように定められた朝廷の管理が及ばない特別な郡である。全国では伊勢神宮の多気郡・度会郡・

られており九州では唯一当大社が認められ、その地域は、現在の宗像・福津両市に遠賀・鞍手・粕屋郡の一部を併せた広大な範囲にわたる。

現在、当大社辺津宮の本殿を囲むようにお社が立ち並んでいるが、これは神郡内に鎮座した百二十七社の御分霊(現在では鎮座地も不明なお社も有る)をお祀りしている。これは往昔、当大社が神郡の総氏神であった事を物語っている。又、これらのお社は、当大社に所縁深い神社である『摂社』、摂社ほど関係が及ばない『末社』に区分されていた。

現在では、これら大部分の神社には奉務される神職が別



宇生神社



特殊神儀(の原神社)

10月15日	氏八満神社	宮座祭
10月9日	葦木神社	宮座祭
9月25日	指来神社	宮座祭
9月23日	宇生神社	宮座祭

祭典奉仕 ※当大社管理

10月12日	的原神社	秋季大祭
10月9日	織幡神社	秋季大祭
10月5日	縫殿神社	秋季大祭
9月23日	宮地嶽神社	秋季大祭

献幣使奉仕

以下、出向奉仕した祭典をご紹介します。



葦木神社

におられるが、摂社格であった名残は、その神社の主要祭事に毎年当大社より神職が献幣使として出向し、祭詞を奏上している。

神宝館特別展

「宗像大社刀剣展」のご案内

現在、当大社神宝館で御祭神へ奉納された刀剣を公開しております。刀匠の技の結晶を皆様是非ご覧下さい。

- ◆会期 11月23日(祝)まで
- ◆時間 午前9時～午後4時30分
- ◆会場 宗像大社神宝館1階展示室
- ◆拝観料
大人 500円
大学・高校生 300円
中・小学生 200円
★15名以上は1名に付100円引

※展示替え作業のため、平成23年11月24日(木)・25日(金)は、館内の一部がご覧いただけません。詳しくは宗像大社 0940-62-1311へお問い合わせ下さい。

七五三詣のご案内

宗像大神様に生を受けてから今日まで無事に成長出来たことを感謝し将来のご加護を祈願する人生儀礼です。

- ◆年齢 3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児
- ◆期間 11月末迄
- ◆初穂料 1人 5,000円
- ◆授与品 御守、御幣、千歳飴 ほか

第38回

「秋季奉納盆栽展」のご案内

- ◆会期 11月12日(土)～15日(火)まで
- ◆時間 午前8時30分～午後5時
- ◆会場 宗像大社本殿横
- ◆拝観料 無料

(続)



261

いしただし



今年(明治四十四)辛亥の歳に、湖北省武昌城で、革命派の軍事反乱が起こり永年続いた清朝が倒れた。十二月一日、国民党の孫文が臨時大總統に就任して、共和制を宣言。中華民國が誕生した。孫文は「民主主義、民権主義、民生主義」の三民主義を唱えた。だが革命勢力は脆弱で、間もなく軍閥の袁世

凱が大總統となった。孫文は袁世凱の軍閥専制に反対、反袁運動を起こし、第二革命を起したが敗れ、日本や欧米に亡命した。

孫文は、字を逸仙・中山と号した。一八六六年、広東省香山県に生まれる。十三歳の時に、兄を頼ってハワイに渡航、キリスト教徒となる。香港の医学校を卒業して医者となった。一八九四年、清朝打倒を志して興中会(孫文がハワイで広東出身の華僑を中心に組織した反満革命の秘密政治結社)をつくり、たびたび武力蜂起を試みた。

後に中国国民党の母体となった。

孫文は、日本や欧米に亡命している。日本には十数度来ているし支援者も多くあった。孫文は、福岡にも縁があり、玄洋社(二八八〜一九四六年の頭山満を中心とした国家主義的右翼団体)とも深く交わり、大正二年(一九一三)には福岡に来て、聖福寺の平岡浩太郎(玄洋社の幹部、炭鉱家、代議士)の墓に詣で、また西職人町(現中央区舞鶴)の玄洋社も訪れている。九州大学には孫文揮毫の額「學道愛人」が残っている。さて玄界沿岸には海流にのって、台湾の国民政府が

中華人民共和國へ流していたプロパガンダ(伝単)が漂着する、これは海漂器と称するものだがプラスチックの容器に、目に付きやすい色彩をほどこし、中に

は反共ビラや台湾の自由で豊かな生活が宣伝されている。ビラと共に台湾製品が一点だけ入れられている。タオルや針箱、石鹸、香水、靴下等がある。海漂器の漂着に気が付いたのは一九七九年代で、一九九一年四月末に台湾が内戦終結を宣言して中止、それ以降海漂器漂着はなくなった。

一九八三年十二月二六日、福津市の白石浜―勝浦浜を歩いていたとき漂着していた水筒型の容器の中に孫文の写真が五枚とタオル(30×30)一枚が入っていた。孫文の写真には二種類あって、上半身と顔面のものがある。上半身のものには、「革命尚未成功」とある。これは孫文の遺言。顔面ものは、国父孫中山先生とあり、裏面には「国父紀念歌」がある。三章節には

「国父精神 永垂不朽如 父洋加汁划」



青天白日旗



海漂器



國父孫中山先生

民政治、馬地人享政治、裕日、中在、金、基三、分政、等、富、國府澎、興行、充着、主、民、生、自、復、實、主、民、受、民、生、自、子。



革命尚未成功

同志仍須努力

國父孫中山先生。『目前世界上所當急的問題、不外是民族、民權、民生三個問題。民族問題把這四個問題解決、世界便會太平。』

『要建設一個完全安全的新世界、一定要用三民主義來建設這新世界之工具。』(民國十二年十二月)

「国父遺言 不要忘記革命 命尚未成功」

「国父精神 永垂不朽如 父洋加汁划」

「【参考】 『玄洋社』封印された実像」 石瀧豊美 海鳥社

第六〇三回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区

豊田 光子

蛸も鳴かなくなりて震災の自然破壊は一つの転機
震災をひとつの転機として自然破壊を止めたいとい
う作者の祈りの歌と読んだ。

宗像市 土穴

山本 静子

「田園」を知るのみにしてユリックスで九州交響楽団・ピアノ聞きたり
音楽を聴くのに知識はなくても構わない。演奏会を楽
しんだ作者。内容を絞って「知る曲は「田園」のみなれ
ど楽しみ九州交響楽団演奏会を」としては。

福津市 若木台

山崎 公俊

賞状に受賞者の名を入るときタカラツカかとしはしばしば思ふ
若い人の名はさまざままで芸名のようなもの。違和感に「宝塚かい。」と咳く
作者か。三句以下(書いて遇ふタカラジェンヌと紛ふやうな名)などとしても。

うきは市 浮羽町

向 則正

七十の手ならいの一つラジオにて基礎英語きく楽しみましたり
今回提出されたほかの歌では体調を崩したりされて
いるようだが、それでも作者の向学心は健在。四句・
結句を「基礎英語」を聴く楽しみが増ゆ」とした。

福岡市 南区

井田有久衣

在りし日に夫奉職のまなびやの前に佇ずみじつと見上げる
かって職場だった校舎を見上げ、夫君を懐かしむ作者の
思いのこもった一首。二句を「夫の勤めし」とすると調べ
が良くなる。夫は短歌でよく使われる言葉。

福津市 中央

池浦千鶴子

数珠だまをいつもの川辺にとりに行く姑に供へむ水切りをして
数珠玉を採りに行き仏前に供える作者、花ではないとこ
ろにお姑さんとの間の親しさがうかがえる。上の句の
語順を変え「いつも行き採りし川辺の数珠玉を」。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

砂時計逆にしたらばことごとく元へと戻る魔法はなきか
作者に共感する。先ごろニュートリノの速度が光より
速いことが分かり、タイムマシンの実現も、などと言わ
れたが当分は夢。二句は「逆にしたら」に。

宗像市 池田

森 龍子

一日のスケジュールほぼこなすゆえ安泰にして夕餉の進む
規則正しい生活を守り、日課をこなす働き者の作者像が
見えてくる。日常生活も心の在りようも穏やかな作者
は夕食をおいしく食べられるのだ、做りたい。

宗像市 日の里

大和美由紀

庭園の巡路につづる曼珠沙華茎やはらかに咲き始めたり
彼岸花の茎に注目したのが一首の要。太い緑の茎が柔
らかという表現が適当かどうかで評価が分かれそうだ。
のびやか、など他の言い方も考えてみては。

宗像市 田久

巻 桔梗

おほき字の「米だけの酒」の傍らに「純米酒にあらず」とちさき断り
酒瓶の文字を見ておやおやおやと思う作者、何酒だったのだ
ろう。カッコ内の言葉がラベルの印刷だと分かるように
初句は「ラベルの文字」としては。

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

墓参へと雨の坂道登りゆけば墓地のコスモス迎へてくれぬ
コスモスの花に慰められた心の動きが丁寧な詠まれて
いる。「墓地に咲くコスモスの花に迎へらる雨の坂道お
参りに来て」など言葉をゆつくりさせる方法も。

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

庭に咲くバラ白萩にカーネーション枕辺にさし眠りに入りぬ
庭の花を挿した花瓶を枕元に置き、花の香に包まれ気持ちよく眠っ
た作者だろう。二・三句を「バラと白萩、カーネーション」としたい。

選者誌

なんとなく心ざわめくやうな午後けふの月齢十五と気づく
かくしごとするゆるる嘘をかさねきて今日のわたしは大き玉ねぎ

第五七八回

俳句作品集

宗像市 平井

占部 詩子

秋の蚊の人恋ひ来ては打たれけり

宗像市 日の里

花田いつ枝

秋鯖を挟みて句ふ吉野箸

編集後記

「神は人の敬に依つて
威を増し 人は神の
徳に依つて運を治う」という言葉が有る▼
年に一度、三姫神がお揃いになり、その御
恵をお領け頂く秋季大祭。今年は、地域
からの要望で神輿行列が約三十年振りに
地元住民奉仕の下、神湊市街地を三基の
神輿が練り歩き沿道には多くの人々が詰
めかけた▼昨今伝統のお祭りが、人出不
足で中止又は規模を縮小せざるえないと
いう話も耳にする中、このような地元の
皆様の神事への積極的な姿勢は心強く、
その姿は正に冒頭の言葉が相応しい▼話
は私事へ変わりますが、先月号でお知ら
せしました通り「みあれ祭」当日ではあり
ませんでした。が、無事元気な双子を授か
りました事ご報告致します。(松)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八二一-三三〇五
福岡県宗像市田島三三三二

電話 (0940)621-3311(代)

発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・松林拓

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円